



商店街で買い物をする夫婦。褒め合うことが夫婦円満の秘訣(ひけつ)になる＝新潟市中央区本町通6

二人で買い物 思いを聞けば…

夫と妻との間には「褒める」を巡る溝がある

人間関係を円滑にするコツにもなる「褒め」。新潟市中央区本町通6の商店街で、買い物をする夫婦に「褒めますか」「褒められてますか」と聞いてみた。だが、最初に聞かれたのは、お互いへの不満だった。

中央区にある実家へ法事で帰省した千葉県の新井正子さん(50)は、料理や家族への気遣いを夫に褒めてほしいと思っている。「身近すぎるから、褒めなくてもいいと思っているのでしよう。えっ、私ですか。しょっちゅう、夫を褒めていますよ」

すると買い物袋を持った夫の富士雄さん

(64)は納得いかない表情を浮かべる。「料理や掃除を手伝っても、妻に褒められない」と不満そうだ。正子さんはすかさず「助かっているって褒めているじゃない」とツッコミを入れた。褒め言葉の受け止めにすれ違いが見え隠れする。

1歳の孫を抱っこしていた東区の阿部博さん(60)は「妻から褒められるのは、車の運転くらい。バックがうまいねと。買い物に付き合うくらいでは、褒められません」と笑う。妻(62)は博さんをじろりと見詰める。「私も夫に褒められたことなんかないですよ」。やはり褒め合うのは、なかなか難しい。

本県に旅行中という東京都の男性(78)は「いつも自然に褒めている。今日も焼きザケがおいしいと鮮魚店を褒め、ホテルの人も褒めた。30分おきに褒めている」と自信満々だ。とはいえ妻(69)は「夫には、料理など私を褒めてほしい」と思っている。男性は「妻を褒めるのはあまり…。言葉にするとウソっぽくなるでしょ」



買い物の荷物持ちは当然？

80代は「褒めたい」に

夫婦の間には、深い溝があるのだろうか。心温まる夫婦はいないかと声を掛け続けた。

両手に買い物袋を持った中央区本町通5の本間重信さん(81)は、つえを持つヒサヨさん(78)に寄り添って歩いていた。ヒサヨさんは「私は足が悪いから、主人はいつも買い物に付き合って荷物を持ってくれます。雨が降れば、体操教室まで迎えに来てくれます。毎日、ありがとうです」と笑顔いっぱい。

重信さんは「妻はつえを持っているから、雨の日は傘を差してあげるんです。そう、相合い傘。友人にはからかわれます」と幸せそうに話す。

中央区礎町通4の山崎賢二さん(86)と道子さん(80)の夫妻も、褒め合っているという。道子さんは「年を取って体が不自由になったから、食事は主人が作ってくれます。私は後片付け。毎日、感謝を伝えています」と自然体だ。

賢二さんは、道子さんへの思いやりをにじませて話す。「昔は妻が何をしても、知らん顔をしていましたよ。でも妻が体を壊してからは、普通にしているだけでも「今日は調子が良かったね」と褒めています」

二人の時間を重ねるほどに、思いやりが深まるようだ。「褒められたい」は、「褒めたい」に変わるのだろう。